



福井市高柳町のマンション建設現場で、現場監督や協力業者らと。「真面目に一生懸命」の言葉を背に「皆でスクラムを組んでこそよい仕事ができる」。

与えられたことに、完璧にこたえろ。当たり前前だけど、代表者の最大の務め。つくる自分達も納得のいく建物でありたい。



木戸 誠さん

一般住宅をはじめマンションやビル、公共施設などの建設にあたる「日昭建設」代表取締役。10代の頃から建設の仕事に携わり、33歳で父親が興した会社の後を継ぐ。39歳。

**営業マンはいらない。現場を見てもらえば伝わる。**

建物は、建てることでなく、建て終わってからの勝負。人の命や暮らしを長期間守るかけがえのないものだけに、私たちの手を離れても、やっぱり常に胸の張れるものであつてほしい。少人数でやっている私達の場合は、数字で示すような大きな実績があるわけではなく、建てている時の状態や、建ててきたものを見てもらうことでしか信頼は得られない。まずは、与えられた仕事

をきっちりこなすこと。完成後の強度や使い勝手などを考えて、図面がないことやつてしまうこともありすよ。たとえ誰にも見えないところでね。将来、若い人たちに自分も納得のいかない建物は見せたくないし、何より一番身近にいる家族に恥ずかしいことはしたくないですから。当たり前なのですが、それがすべての現場に掲げている、この「真面目に一生懸命」という言葉に託されているんです。

施主さんをはじめ関係の業者や隣の田んぼにいる近所の人…誰がふいに来てもすぐに案内できるように、安全管理を徹底しています。1人ひとりが責任を持って誘導する、そんな気持ちがあれば、営業マンはいらない。最初から最後までひとりの現場監督が付き添うことで、一般的にありがちな営業と現場の食い違いもなくなります。新たな出会いはいろんなところから訪れるものだと思います。

**立ち止まらず、正々堂々、常に考えながら建物を進化させていく。**

社員は私を合わせて6人。経費が低く押さえられるので、施主さんに安く提供することが出来ます。またその分、強度や素材など建物自体に反映させることも。建物には絶対の自信がありますが、営業トークのように「万一地震がきても、この建物は残りますよ」などとは言いたくありません。その時が来れば自ずとわかることで



福井市大和田町で手がけた「opmビル」。昨年、福井市都市景観賞を受賞した。建築の技を駆使した細かい気配りが収められている。



今春落成した丸岡町の自動車修理会社の建物。「建物は、建て終わってからが勝負」。これからは主体的な「攻め」の姿勢も大切という。

**日昭建設株式会社**  
福井市花月4丁目1-2  
TEL 0776-21-2619(代)  
[http://homepage2.nifty.com/fnk/no\\_1.html](http://homepage2.nifty.com/fnk/no_1.html)

私達の会社は、新しいことにすぐにチャレンジできるという身軽さがあります。でも、ひとたび休めば、すぐに追いつかれてしまう。いろんなアイデアを出して、次から次へと建物を進化させていかなければ。建物本体の性能やつくりのよさはすぐに判断できるものではないけれど、何よりもその力を物語る事ができるのは、やはり自分達が手をかけるもの。だからこそ、手を抜けないんです。